

有尾目 (サンショウウオ目) オオサンショウウオ科

# オオサンショウウオ

*Andrias japonicus* (Temminck, 1837)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

国の天然記念物に指定されており、学問的価値が高い。西日本の山地にのみ生息し、河川改修工事などにより生息環境が良好とは言えなくなっている。生息地が減少すると同時に、生息地での分布密度が次第に低下していると思われる。

### 【概要】

体長は50-70cm、体重は2-5kg位のもがよく発見されるが、中には体長150cm、体重30kgになる個体もある。体型は平べったい頭部と大きな尾が特徴で、体色は全身が茶色で、背側と尾に不規則な形の黒斑が点在する。この黒斑は個体によって異なっており、個体識別の手がかりとなる。目は非常に小さく、黒斑にまぎれて見つけにくい。成体は一生を水中で生活しており、昼間は穴に潜み、夜間に流れの緩い部分に出て、魚、サワガニ、カエルなど、目の前で動くものを何でも捕食する。雌雄とも体長40-50cmで性的に成熟し、繁殖活動を行う。産卵は

8-9月にかけて河川上流部の岸の横穴や大石の下などで行われ、1頭のメスは数珠状に連なった卵を400-500個産卵する。孵化した幼生は体長30mm程度で、黒っぽい体色をしている。外鰓が取れて変態を完了するまでには約3年かかる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地よりの河川に多く生息することが確認されている。河川の岩穴や石の下に潜んでおり、産卵期には上流域へと上って、石の下などで産卵する。

### 【存続を脅かす原因】

生息域および産卵域における水質汚濁、河川改修工事、砂防ダムの建設工事などの開発事業による生息環境の悪化。特に、土木建設工事関連事業による砂泥流出は、産卵床の埋没を引き起こし致命的である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

有尾目 (サンショウウオ目) オオサンショウウオ科

# オキサンショウウオ

*Hynobius okiensis* Sato, 1940

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵7

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

隠岐(島後)においては、昭和初期からおもに始まった山地の広葉樹から針葉樹への林業樹種転換作業は、戦後さらに増加し、本種の生息環境を悪化させた。さらに山奥での土木工事等による水系の破壊は、幼生の生育環境を悪化させ、本種に激減させる要因を与えた。

### 【概要】

成体の全長は約13cm、体色に黄味がかった斑紋が出る個体もいるが、ほぼ黒色の個体もいる。本種は前後肢を体側で合わせると、重なり合うことや、卵の色が淡緑白色である点などが異なっている。産卵は早春で、親は冬眠前に溪流の源流近くに集まっている。冬眠を終えると伏流水の中や溪流の岩の下などに産卵する。卵のうはバナナを長くしたような形で、外皮は丈夫である。早春にふ化した幼生は翌年の夏ごろに変態し、水中生活から陸上生活になる。親は溪流からかなり離れた山地までも移動するほど活発な行動力を持っており、夜間の運動量は

昼間の行動量からは考えられないほど大きい。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(島後)の溪流から山地にかけて生息。山地に棲む流水性の種類のサンショウウオだが、海岸近くから高地まで広く分布している。

### 【存続を脅かす原因】

隠岐(島後)では常に一定の水量を保っている河川が少なくなってきた。本種の幼生にとっては安定した水量が年間を通してあることが生存の絶対条件でもあるが、夏などに完全に水の無くなる現象が見られる小川が増えてきている。また、親にとっては樹間の落ち葉の下や林間の岩の陰、砂礫の間など乾燥し過ぎない場所が必要であるが必ずしも多いとはいえない。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎			◎														